

## ♪「春風コンサート」ぶらり訪問記♪

音楽センター 東部アコーディオン教室発表会(講師:木下そんき / 鶴見篤子)

日時 2012年4月7日(土) 13時開演  
会場 アミュゼ柏小ホール(千葉県)

オープニングは、全員で「サウンド・オブ・ミュージック」を演奏。続いて「鉄腕アトム」を三重奏で元気よく演奏。その後は重奏を挟みながら前半、後半に分かれ生徒全員が独奏に挑戦。休憩を挟み、後半は笛、三味線、太鼓のゲスト演奏で始まり、最後はドヴォルザークの「新世界より」の全員合奏という2時間ほどの演奏会でした。

つい歌いたくなる曲(桜・荒城の月 / 君恋し / 津軽海峡冬景色 など)もあり、会場から自然に歌やハミングが聞こえていました。

皆がよく知っている曲を弾くのは緊張します。とコメントのあった「ルパン三世のテーマ」はパンチの効いた演奏でテーマに入るところでは、中学生の男子同士が顔を見合わせてニコニコしていて嬉しそうでした。

「カッコウ・ワルツ」を弾かれた女性は、昨年教室に入られて、この四月にアメリカ留学から帰って来たばかりの高校生ですと紹介されました。アコーディオンは小学校5年のとき中国でおばあちゃんから教えてもらったことがあるそうですが、子供達ってどうしてあのように人前で物怖じしないでのびのびと演奏できるんだろうと不思議です。しっかりした音でこれからが楽しみです。

ジャズ風にアレンジされた「オーバー・ザ・レインボー」。三線が入った「島唄」(アコ2人)は筆者も同じ曲で他のパートと合わせるのに苦労したことを思い出しました。

講師演奏は、ノルウェーの作曲家グリークの「過ぎた春」。広大な草原に寝転んで流れる雲を見つめながら、いつしかまどろみの世界へ誘われていくそんな曲でした。

ゲスト「東葛合唱団はるかぜ郷土部」の演奏は「里の子守唄」(笛の五重奏)と春を告げる「東風」(写真)で、老人ホームで演奏する際に太鼓の音がちょっと大きすぎてびっくりされるので笛でお願いできませんかといわれても吹ける仲間が少なく断っていましたが、そんな要

望があるなら頑張っ  
て覚えよう  
と皆でチャ

レンジしているところで、「笛の五重奏」は今回が2度目の発表だそうです。

エンディングは、ドヴォルザークの「新世界より」。かつて(2007年、奈良で行なわれた)日本の歌声祭典の大合奏で演奏したのは4楽章でした(木下そんき:指揮)その後編曲を変えながら進化している曲です。今回は第2楽章で、また新しいバージョンで聴かせてくれました。(写真下)7分ちよつとにまとめられています。何時聴いても「いいなあ」と思う曲ですね。(乙津:記)



